

51

がん患者を対象にした検査説明の活動について

◎井尻 健太郎¹⁾、堂下 誠一¹⁾、東山 智宣¹⁾
淀川キリスト教病院 臨床検査課¹⁾

【はじめに】近年、臨床検査技師による検査説明を行う活動が全国的に広まっている。当院でも臨床検査課に市民講座などで臨床検査技師による検査説明依頼があるが主に一般市民を対象とする場合が多く、プレゼンは検査全般に対しての猥雑とした内容で終始しているのが現状である。一方、当院は大阪府のがん診療拠点病院に指定されており、その要件にがん患者の活動支援があげられている。当院では「がん患者と共に学ぶ会」を開催しており、医師、看護師をはじめとして薬剤師、社会福祉士、理学療法士、栄養士などの多職種の職員が、がんに関しての啓発的な内容について講義をしている。臨床検査技師もこの会でがんと向き合って治療している患者を対象に、がんに特化した内容の講義を行っており、活動について報告する。

【講義内容】講義は、がん相談支援センターに寄せられた検査に関する質問や、今までの講義で質問があったもので、その内容は①基準値・検査結果の見方、②検査と保険適応、③腫瘍マーカー、④CRP、⑤Na、Cl、K、⑥腎機能・肝機能、⑦白血球、⑧感染症についてである。これらについて、

がんに関係する内容とした。講義を担当する臨床検査技師の選定は、腫瘍マーカーや検体検査の基本的なデータの考え方について慣れている生化学・免疫検査担当者で、且つ日臨技が開催している「検査説明・相談のできる臨床検査技師育成研修会」の受講を修了した者とした。

【開講状況】過去の平均参加者数は10名程度の会であったが、2018年度における臨床検査技師による検査説明の講義は、参加者が27名であり過去最多であった。また、講義の終了後に講義内容についてアンケートを実施した。

【まとめ】臨床検査技師が検査説明を行う機会は増えてきているが、病院の方針などで現状ではまだまだ検査説明の機会は乏しいと考えている。今回、当院で始めたがん患者と共に学ぶ会の講義では、参加者による具体的で本質に迫るような質問が多数行われており参加者数も増加していることから、がん患者を対象をしばった場合、臨床検査に対する関心が強く感じられた。今後もアンケート結果を通して参加者の意見を反映させた講義内容へと深化させるべく活動を継続していきたい。（連絡先-0120-364-489）